

平成 29 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

生徒の持てる力や可能性を最大限伸ばす「生徒が主役の学校」をめざす。

- 1 地域やグローバルな世界を『たくましく生き抜く力』の基となる「豊かな人間性」の涵養
- 2 地域やグローバルな世界を『たくましく生き抜く力』の基となる「確かな学力」の定着
- 3 将来の生き方をデザインし、自ら学び続けることができる生徒の育成
- 4 自ら学び続ける教師集団の確立

2 中期的目標

1 地域やグローバルな世界を『たくましく生き抜く力』の基となる「豊かな人間性」の涵養

(1) 安全安心で「生徒が主役」の学校生活。

ア 生徒をより深く理解するために、「高校生活支援カード」「個人面談週間(4月・6月・11月)」等を活用する。

また、「学年会議」等で、生徒情報を共有化し、中退やいじめの防止に努める。

※ 生徒の「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」(H28の61%をH31には66%にする)

※ 保護者の「学校は親身になって相談に応じてくれる」(H28の54%をH31には60%にする)

イ 部活動を通して多くの生徒に成功体験を積ませる。

※ 生徒の「学校は部活動が活発になるよう取り組んでいる」(H28の50%をH31には56%にする)

(2) 多様な体験活動の提供と達成感で自尊感情と規範意識を高める。

ア 校外での活動で生徒が活躍できる場を提供する。

イ 基本的な生活習慣の確立。

※ 生徒の「普段から遅刻しないよう心掛ける」(H28の82%をH31には87%にする)

ウ 生徒が学校行事を自主的に企画・運営することで達成感を実感させる。

エ 地域社会や学校の一員としての自覚と責任感を持ち、愛校心及び他者を思いやる心を養う。

(3) 学校施設等の諸条件の整備と防災教育。

ア 学校施設等の諸条件の整備。

イ 防災教育や危機管理体制を再構築する。

2 地域やグローバルな世界を『たくましく生き抜く力』の基となる「確かな学力」の育成

(1) 「学ぶ楽しさ」「わかる喜び」生徒のやる気を引き出す。

ア ICT活用と言語活動をキーワードに、「学ぶ楽しさ」「わかる喜び」で、生徒のやる気を引き出す。

※ 教員の「ICTを使って授業を展開している」(H28の66%をH31には73%にする)

イ 少人数展開授業をはじめ、各授業や講習、補習の充実を図り、基礎基本の定着に努める。

※ 生徒の「内容がわかりやすい授業が多い」(H28の66%をH31には71%にする)

(2) 生徒の「多様な学び」を保障する。

ア 生徒の多様な学びの要望に応えるカリキュラムや課外プログラムの提供に努める。

イ 生き抜いていく基となる資格取得を進める。

ウ あらゆる科目において、「考える」「発表する」参加体験型のアクティブラーニングを研究する。

※ 生徒の「学校の評価は、テストの点だけでなく、生徒の努力や授業に取り組む姿勢等を含めて行われている」(H28の76%をH31には81%にする)

3 将来の生き方をデザインし、自ら学び続けることができる生徒を育成

(1) キャリア教育プランの実行。

ア 3年間のキャリア教育プランに基づき、1年次から進路意識の高揚を図り、生徒個々が将来の生き方をデザインする。

※ 生徒の「将来の進路や生き方について考える機会がある」(H28の65%をH31には70%にする)

イ 1年次より外に出かけ、進路を意識する機会を提供する。

ウ 「学力向上のためのプロジェクトチーム」の取組みを通して、将来を見据えて継続的に頑張ることができる生徒を育てる。

エ あらゆる教育活動を活用し、生徒や保護者へのきめ細やかな情報の提供を行う。

※ 生徒の「先生は進路についての情報を良く知らせてくれる」(H28の68%をH31には73%にする)

オ 進路未決定者を減少させる。(H28の17%をH31には9%にする)

(2) アセスメントの活用。

ア 基礎教養の定着度や「個々の強み」を知るために、アセスメントを活用し、一人ひとりが持てる力を伸ばし、進路実現を図る。

※ 生徒の「自分の学力の向上を実感している」(H28の56%をH31には61%にする)

(3) 入学前から生き方プランを考える機会を提供する。

ア 本校で頑張りたいと思う生徒が入学できるように広報活動を行う。

イ 「スポーツフェスティバル in イズトリ」の継続実施により、様々な活躍の場があることを示す。

4 自ら学び続ける教師集団の確立

(1) 授業改善のための学び合い。

ア 外部の力を活用した研修を行い、自ら学び続ける教師集団を育む。

府立泉鳥取高等学校

※ 教員の「研究授業を定期的実施している」(H28の16%をH31には30%とする)

イ 外部の研修に参加しやすい職場環境を保持し、研修で得た情報や知識を校内研修で共有し還元する。

ウ 授業観察及び相互の意見交換を行うことで自ら授業改善に取り組む。

※ 生徒の「他の先生が授業を見学に来ることがある」(H28の73%をH31には80%とする)

(2) 教員が本校生徒、学校の実情を知る。

ア 情報交換の場を設けることで交流を促す。

※ 教員の「経験の少ない教員と経験豊かな教員の交流を定期的実施」(H28の48%をH31には60%とする)

イ ミドルリーダーの自覚を促し、学校の活性化に向けての取組みを立案させる。

※ 教員の「学校教育計画・学校経営計画の重点目標に照らして目標を設定し教育活動を行う」(H28の55%をH31には70%とする)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析[平成29年12月実施]	学校協議会からの意見																																				
<p>学校経営計画が、どのように取り組んでいるかが分かるよう各質問項目を選び、経年変化を考察する。(生：生徒 教：教員 保：保護者) 　　あてはまる%</p> <p>1 確かな学力 ○わかりやすい授業を拡充・展開する 29年 (28年)</p> <table border="0"> <tr> <td>生「自分の学力の向上を実感している」</td> <td>61%</td> <td>(66%)</td> </tr> <tr> <td>教「授業は、基礎学力の向上に重点を置いている」</td> <td>80%</td> <td>(43%)</td> </tr> <tr> <td>保「子供の基礎学力が向上したと感じる」</td> <td>56%</td> <td>(45%)</td> </tr> </table> <p>昨年とは質問内容を少し変化させた、授業は少人数、ICTの活用、参加体験型を多く取入れ、意欲がわくように工夫している。教員の実感や保護者の手ごたえは上昇しているようであるが、生徒の実感としては伸びが見られない。</p> <p>2 安全安心な学校 ○生徒に寄り添う生活指導 29年 (28年)</p> <table border="0"> <tr> <td>生「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」</td> <td>63%</td> <td>(61%)</td> </tr> <tr> <td>教「教職員は生徒の意見をよく聞いている」</td> <td>74%</td> <td>(68%)</td> </tr> <tr> <td>保「学校は、親身になって相談に応じてくれる」</td> <td>53%</td> <td>(54%)</td> </tr> </table> <p>今年度も懇談会や「支援カード」等を活用しながら丁寧な対応をした。教員・生徒の回答が増加した。中でも、教員の回答が大きく増加した。保護者に対しては、今以上の丁寧な働きかけを心掛ける必要があろう。</p> <p>3 将来の生き方デザイン ○1年からの系統的なキャリア教育 29年 (28年)</p> <table border="0"> <tr> <td>生「1年の頃から進路に関心を持てる授業が行われている」</td> <td>66%</td> <td>(56%)</td> </tr> <tr> <td>教「学校は1年からキャリア教育の目標を設定し、実践している」</td> <td>67%</td> <td>(50%)</td> </tr> <tr> <td>保「懇談等で1年時から進路に関して具体的に先生と話をしている」</td> <td>53%</td> <td>(53%)</td> </tr> </table> <p>1年からのキャリア教育については、生徒・教員ともに増加をしている。教員間での情報共有を心掛けるとともに対応は丁寧に行っており、生徒へは浸透していることが見られる。保護者からの回答に変化がないことを考えると、安全安心な学校と同様に今以上の丁寧な働きかけを心掛ける必要があろう。これらの事実を踏まえて、今後の改善を図りたい。</p> <p>4 教員の育成(資質向上) ○校内教員研修の充実 29年 (28年)</p> <table border="0"> <tr> <td>生「他の先生が授業を見学にくることがある」</td> <td>66%</td> <td>(73%)</td> </tr> <tr> <td>教「研究授業を定期的実施している」</td> <td>11%</td> <td>(16%)</td> </tr> <tr> <td>保「先生は、一社会人として適切な対応ができています」</td> <td>62%</td> <td>(62%)</td> </tr> </table> <p>教員は授業力の向上をめざして、お互いに授業を見る機会がすこし疎かになっている。また、教員間の意見交換や交流も今年度はあまりされていなかったように思われる。このことは教員・生徒の回答が下がっているところからも見られる。今年度、各分掌等で自発的に研修会を実施するなど、多方面での研修会を開催したが今後も有効的に活用して行かなければならない。</p> <p>その他の特筆すべき結果</p> <p>① 取り組みの周知・広報・説明等、工夫・改善が必要である。</p> <p>② 保護者の回答は、「進路情報」「人権尊重」「教育相談」「部活活性化」「いじめ対応」で5割未満になっている。→「部活」以外は取り組みを伝える工夫・努力をして、肯定的評価を増やすようにしたい。「部活活性化」については、現状を少しでも向上させる取り組みを地道に進めていく。</p> <p>③ 「学力向上」は、生徒の肯定的評価6割ではもの足りない。さらなる向上をめざす必要がある。</p> <p>④ 進路指導については、1年生から継続的にHR等を行い、生徒の意識の向上につながっていると考えられる。ただし、もう少し肯定的評価の値を増やしたい。</p> <p>⑤ 本校の教員は、生徒に親身にかかわり、話や相談もしやすい努力はしているといえる。ただし、保護者の評価が低めになっており、これは改善していきたい。</p> <p>⑥ 今年度は、質問文はほぼ昨年と同じだが、分析の形式を【保護者・生徒・教員の比較】に変えたため、3者の質問が微妙に異なっているものがある。次年度は、質問をそろえて、3者の意識差についても考察したい。</p>	生「自分の学力の向上を実感している」	61%	(66%)	教「授業は、基礎学力の向上に重点を置いている」	80%	(43%)	保「子供の基礎学力が向上したと感じる」	56%	(45%)	生「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」	63%	(61%)	教「教職員は生徒の意見をよく聞いている」	74%	(68%)	保「学校は、親身になって相談に応じてくれる」	53%	(54%)	生「1年の頃から進路に関心を持てる授業が行われている」	66%	(56%)	教「学校は1年からキャリア教育の目標を設定し、実践している」	67%	(50%)	保「懇談等で1年時から進路に関して具体的に先生と話をしている」	53%	(53%)	生「他の先生が授業を見学にくることがある」	66%	(73%)	教「研究授業を定期的実施している」	11%	(16%)	保「先生は、一社会人として適切な対応ができています」	62%	(62%)	<p>◎本年度の協議依頼事項</p> <p>◇生徒の持てる力や可能性を最大限伸ばす「生徒が主役の学校」をめざす。</p> <ol style="list-style-type: none"> 地域やグローバルな世界を『たくましく生き抜く力』の基となる「豊かな人間性」の涵養 地域やグローバルな世界を『たくましく生き抜く力』の基となる「確かな学力」の定着 将来の生き方をデザインし、自ら学び続けることができる生徒の育成 自ら学び続ける教師集団の確立 <p>第1回(6/23)</p> <p>学校経営計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> 常に生徒を中心に置いた学校経営を行う。 目指す学校像より校長が説明。 <p>協議会委員からの意見</p> <ul style="list-style-type: none"> 遅刻者が多いことに対する具体的な対応が必要。 クラブ活動の活性化するためにもアルバイトのあり方を考えてはどうか。 生徒の様子が年々よくなり、ボランティア等による地域への貢献度も高く、多様な教育実践ができています。 <p>第2回(11/10)</p> <p>授業見学……各学年の授業を見学し意見を伺う 分掌等の報告……教務部・生活指導部・保健部・進路指導部・図書自治会部より報告</p> <p>協議会委員からの意見</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒が落ち着いて授業を受けている、先生方の努力が見受けられる。 学校がきれいである。生徒にとって過ごしやすい環境は大切である。 現状を見ると更なるステップアップができるのではないかと感じた。 教師の教育力が大切。先生方の努力は何事にもかえがたいと感じた。 <p>第3回(2/9)</p> <p>本年度の進路等の状況報告・各部総括</p> <p>平成29年度授業アンケート結果及び学校教育自己診断の分析について 平成29・30年度学校経営計画、次年度へ向けての提言について</p> <p>1年間のまとめ(委員よりの意見の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域連携・交流・ボランティア活動、イングリッシュ・カフェなど新たな取り組みなどのさらなる推進・充実 カリキュラム・マネジメント・授業の質の向上、そのためのマネジメントを具体化する組織づくり あらゆる科目において、生徒の「考える」「まとめる(統合)」「発表(発信)する」力等、生徒の学びの質向上 <p>『大阪府立泉鳥取高等学校における平成30年度取組みに向けて(提言)』</p> <p>泉鳥取高校は、昨年度の提言に基づき、生徒の持てる力や可能性を最大限伸ばす「生徒が主役の学校」をめざして、①「豊かな人間性」の涵養 ②「確かな学力」の定着 ③将来の生き方をデザインし、自ら学び続けることができる生徒の育成、④自ら学び続ける教師集団の確立 をめざして、1年次よりのキャリア教育、教員の資質向上などに取り組んできている。</p> <p>特に生徒支援と地域連携を念頭においた「ハート偏差値日本一」、また、「阪南市全体をキャンパス」に見立てて、自己肯定感の育成や地域連携の推進という大きな課題に取り組む一定の成果を残した。地域連携については、その理解が、わずかずつではあるが、すすんできていると感じる。今後は、これらの活動をさらに進化させる取り組みを行うとともに、生徒の持てる力を存分に伸ばそうと努力していただきたい。野村総研は、10～20年後に国内労働人口の49%に当たる職業について、人工知能やロボットで代替される可能性が高いという推計を発表している。現在の若者の未来の職業は、大きく変化していくのである。ロボットやコンピューターは芸術などのクリエイティブな作業には向いていないと言われる。となれば、人間は機械にできる仕事は機械に任せて、より高次元でクリエイティブなことに集中すべきなのである。</p> <p>人間がそうして新しいスキルや知性を磨くようになれば、これまで以上に輝かしい『クリエイティブ・エコノミー』の時代を切り開いていけると考える。「たくましく生き抜く力」、そのために必要な「豊かな人間性」、「確かな学力」といった生徒一人ひとりの自己実現につながる取り組みに重点をおき、特に、将来、自らが起業していくような生徒、社会の中でたくましく生き抜くことのできる人づくりをめざす必要がある。したがって、学校の真価を高め、伝統を打破して進化していく</p>
生「自分の学力の向上を実感している」	61%	(66%)																																			
教「授業は、基礎学力の向上に重点を置いている」	80%	(43%)																																			
保「子供の基礎学力が向上したと感じる」	56%	(45%)																																			
生「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」	63%	(61%)																																			
教「教職員は生徒の意見をよく聞いている」	74%	(68%)																																			
保「学校は、親身になって相談に応じてくれる」	53%	(54%)																																			
生「1年の頃から進路に関心を持てる授業が行われている」	66%	(56%)																																			
教「学校は1年からキャリア教育の目標を設定し、実践している」	67%	(50%)																																			
保「懇談等で1年時から進路に関して具体的に先生と話をしている」	53%	(53%)																																			
生「他の先生が授業を見学にくることがある」	66%	(73%)																																			
教「研究授業を定期的実施している」	11%	(16%)																																			
保「先生は、一社会人として適切な対応ができています」	62%	(62%)																																			

府立泉鳥取高等学校

学校、教育活動を常に見直し、深化を求めてやまない学校を期待して、以下のとおり提言を行う。

- ◆「イングリッシュ・カフェ」や「コットンプロジェクト」などの地域連携企画を継続発展させ、その取り組みを行う中で、学校・家庭・地域とのより一層の連携・協働と、PTA 活動の活性化をはかり、小・中学校や大学・専門学校・事業所・関係諸機関とのより一層の連携・協力を通じて、効果的な教育活動を行う。

重点項目

- (1)授業や行事等において、地域の教育的資源の積極的活用と地域貢献を図る。
- (2)地元の幼・小・中学校、児童・生徒・教員との交流を図る。
- (3)関西国際センター、地元セミナー等との交流を通じて、国際感覚の育成を図る。
また、多様な行事を企画し、人権感覚の涵養を図る。
- (4)大学・専門学校等での授業体験や学生ボランティアの導入など、高大連携の推進を図る。
- (5)インターンシップをより一層充実させるなど、職業指導やキャリア教育の進展を図る。
- (6)様々なメディアを活用して、家庭・地域・小中学校等への積極的な発信に努める。

- ◆生徒たちが主体的に行事の計画立案・実施できる環境を整備し、達成感や自己肯定感、自尊感情を育む取り組みを積極的に導入する。また、それらを指導できる教員の力量を高める。

重点項目

- (1)部活動の活性化を図り、様々な活動の発表会等を企画実施する。
- (2)ボランティアサークルをはじめ、生徒の自主活動の育成に積極的に取り組む。
- (3)資格取得(英検・漢検・その他の検定等)に積極的に取り組む。
- (4)生徒会を活性化し、生徒が主体的に行事企画を行えるように取り組む。
- (5)生徒の力を伸ばし切る技術の研究など、自ら工夫し、学び続ける教員の育成を図る。
- (6)カリキュラム・マネジメント・授業力の向上のための具体的組織づくりに取り組む。
- (7)あらゆる科目において、生徒の「考える」「まとめる(統合)」「発表(発信)する」力等の生徒の学びの質の向上に取り組む。

- ◆キャリア教育の一環として、生徒一人ひとりが社会人・職業人として自立し、「夢・夢中・夢^む限大！」をキャッチフレーズに学習・学校生活・進路実現に力を注ぎ、社会に貢献する多様な人材の育成を図る。

重点項目

- (1)生徒一人ひとりが意欲的に取り組める授業(わかる・聞かせる・自ら取り組む)を行う。
- (2)入学時から、学校全体で、生徒が夢と志を持ち卒業後の自身の生き方を考え、進路を選択し、それに向けた準備ができることをめざす、組織的・計画的な進路指導に取り組む。
- (3)他者と自分の両方を大切に自己肯定感、自己重要感を培う人権教育に取り組む。
- (4)日々の教室清掃、登下校における交通マナーの遵守など、日常的教育活動を通して、「あたりまえ」をあたりまえに行える生活感覚と行動力の涵養に取り組む。(良識を備えた生徒の育成)
- (5)「あいさつ」や「言葉づかい」といった社会的マナーを身につけさせ、面接指導や就職試験に向けた日常からの指導を進める。(充実した日常・学校生活)
- (6)薬物乱用をはじめとする生徒たちの生命や安全を脅かす問題について、その正しい認識と防止に対して具体的な取り組みを行う。(生徒の生命・安全を守る取り組み)

提言をまとめるにあたっての要点

- ①現在の若者の未来の職業は、大きく変化していく。10～20 年後には現在ある職業は半減する。
- ②将来、自らが起業していくなど、社会の中でたくましく生き抜くことのできる人づくりをめざす必要がある。
- ③本校でも、自ら考え、それをまとめ(統合し)、創造し、発信していく力をつける必要がある。

■次年度へ向けての要点

*生徒が、主役は当たり前。主役の中身が、時代と生徒のニーズを満たすものになり、10年後20年後を見越した目標になるよう、創造力を育むことを目標に、生徒の人生そのものにかかわっていく内容とした。

- ・生徒の持てる力や可能性を最大限伸ばす「生徒が主役の学校」(H29)
- ・生徒の持てる力や可能性を最大限伸ばす「創造力を育む学校」(H30)

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 地域やグローバルな世界を『たくましく生き抜く力』の基となる「豊かな人間性」の涵養	<p>(1) 安全安心で「生徒が主役」の学校生活。</p> <p>(2) 多様な体験活動の提供と達成感で自尊感情と規範意識を高める。</p>	<p>(1) ア 新入生に「高校生活支援カード」を「個人面談週間」等で活用しながら保護者との連携を密にし、生徒の理解を深める。</p> <p>イ 新入生に「部活動体験」を工夫する等、部活動加入率の向上を図る。</p> <p>ウ 生徒自身が学校を大切に思い、清潔で快適な学校生活を送れるよう努力する。また、安全安心に配慮しながら校外学習や修学旅行なども工夫する。</p> <p>(2) ア 年間を通してボランティア等への積極的な参加を推進する。</p> <p>イ 生徒への声掛けを励行する。また、教員が登下校時の指導・見守りに当たるなど遅刻防止等の指導方法を検討する。それらのことにより、生徒の規範意識を高めるとともに遅刻者数を減らす。</p> <p>ウ 学校行事で生徒が前面に立った運営を行う。</p> <p>エ 「乗車マナーキャンペーン」「地域清掃」「農園活動」等の継続実施で地域とのつながりを密にする。</p> <p>(1) ア 基本的な施設の点検、改修等を継続する。また、継続して進路指導室の充実を図る。</p> <p>イ 災害等に備える知識と対応する力を生徒が身に付けるための防災教育に取り組む。</p>	<p>・学校教育自己診断</p> <p>(1) -ア 生徒の「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」64%以上 (H28 61%)、保護者の「学校は親身になって相談に応じてくれる」57%以上 (H28 54%)</p> <p>(1) -イ 部活動加入率の5%増加 (H28 23%)</p> <p>生徒の「学校は部活動が活発になるよう取り組んでいる」53%以上 (H28 50%)</p> <p>(1) -ウ 生徒の「自分は掃除に積極的に取り組んでいる」71%以上 (H28 68%)。また、校外学習や修学旅行等での工夫</p> <p>(2) -ア ボランティア活動等に66人以上の生徒が参加 (H27 63名)</p> <p>(2) -イ 生徒の「普段から遅刻しないよう心掛ける」85%以上 (H28 82%)</p> <p>遅刻者数の10%減少 (H28.12 7,960名)</p> <p>(2) -ウ 行事運営に100人以上の生徒が関与するとともに生徒の「学校へ行くのが楽しい」65%以上 (H28 62%)</p> <p>(2) -エ 各種事業の継続実施 (H28 12事業)</p> <p>(3) -ア 施設の老朽化に伴う未改修箇所を減少させるとともに迅速な対応を行う。また、計画的な整備を行う</p> <p>(3) -イ 防災について学習する機会を年2回</p>	<p>・学校教育自己診断</p> <p>(1) -ア 生徒の「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」64%以上 H29 62.9(○) (H28 61%)、保護者の「学校は親身になって相談に応じてくれる」57%以上 H29 53.1(△) (H28 54%)</p> <p>(1) -イ 部活動加入率の5%増加 H29 23.6 (△) (H28 23%)</p> <p>生徒の「学校は部活動が活発になるよう取り組んでいる」53%以上 H29 46.4(△) (H28 50%)</p> <p>(1) -ウ 生徒の「自分は掃除に積極的に取り組んでいる」71%以上 H29 70.7(○) (H28 68%)。また、校外学習や修学旅行等での工夫</p> <p>(2) -ア ボランティア活動等に66人以上の生徒が参加 H29 100人超(○) (H27 63名)</p> <p>(2) -イ 生徒の「普段から遅刻しないよう心掛ける」85%以上 H29 84.2 (○) (H28 82%)</p> <p>遅刻者数の10%減少(△) (H29.1 8,521名)</p> <p>(2) -ウ 行事運営に100人以上の生徒が関与するとともに生徒の「学校へ行くのが楽しい」65%以上 H29 63.3 (△) (H28 62%)</p> <p>(2) -エ 各種事業の継続実施 (H28 12事業) H29 11事業 「乗車マナーキャンペーン」については、マナー向上にともない今年度未実施</p> <p>(3) -ア 施設の老朽化に伴う未改修箇所を減少させるとともに迅速な対応を行う。また、計画的な整備を行った。予算的なこともあり、処理できていない箇所もある。(△)</p> <p>(3) -イ 防災について学習する機会を年2回 H29 2回実施 (○)</p>
	2 地域やグローバルな世界を『たくましく生き抜く力』の基となる「確かな学力」の定着	<p>(1) 「学ぶ楽しさ」「わかる喜び」生徒のやる気を引き出す。</p> <p>(2) 生徒の「多様な学び」を保障する。</p>	<p>(1) ア 「学校経営推進費」事業等を活用しICT環境整備に努めるとともに「学ぶ楽しさ」「わかる喜び」を味わえる、本校に適した授業方法を研究する。</p> <p>イ 各授業や講習、補習の充実を図りながら、基礎基本の定着に努める。</p> <p>(2) ア 総合的な学習の時間が進路指導に結びつくよう基礎学力、教養を身に付けさせる。</p> <p>イ 担任、学年団及びPTA等の協力を仰ぎながら英検等の資格試験を推奨する。</p> <p>ウ 授業規律を大切に「考える」「発表する」参加体験型のアクティブラーニングを踏まえて教え方を研究する。</p>	<p>・学校教育自己診断</p> <p>(1) -ア 生徒の「総合学習は進路に結びついている」62%以上 (H28 59%)</p> <p>(2) -イ 英検の受検者数を4名増加 (H28 31名)</p> <p>(3) -ウ 生徒の「教え方にさまざまな工夫をしている先生が多い」72%以上 (H28 69%)</p>

府立泉鳥取高等学校

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">3 将来の生き方をデザインし、自ら学び続けることができる生徒の育成</p>	<p>(1) キャリア教育プランの実行。</p> <p>(2) アセスメントの活用。</p> <p>(3) 入学前から生き方プランを考える機会を提供する。</p>	<p>(1) ア 1年次より系統立てて、生徒個々が将来の生き方を考える機会を与える。</p> <p>イ 大学等オープンキャンパス、インターンシップ、職場体験、看護体験等への参加を促す。</p> <p>ウ 「学力向上のためのプロジェクトチーム」を再編成する。また、進路意識の高い生徒の学習の場を保障するため進学者向け講習会や合宿等を検討する。</p> <p>エ 「進路だより」等を継続して、生徒や保護者への情報の提供を行う。</p> <p>オ 粘り強い指導を続け進路未決定者を減少させる。</p> <p>(2) ア アセスメントの結果を個人面談や進路ホームルーム等で用いることにより、生徒は自分の基礎教養の定着度や「個々の弱み強み」を知る。</p> <p>(3) ア 将来の生き方をデザインし、本校で頑張りたい、と思う生徒が入学できるように広報活動の諸条件を整備する。</p> <p>イ 「スポーツフェスティバル in イズトリ」実行委員会で本校に合致した内容を検討し充実を図る。</p>	<p>(1) -ア 生徒の「将来の進路や生き方について考える機会がある」68%以上 (H28 65%)</p> <p>(1) -イ 大学等オープンキャンパスで100名を超え、インターンシップ等への参加者の10%増加 (H28 38名)</p> <p>(1) -ウ 進学希望者への対応。また、大学、短大進学者数の10%増加 (H29.3 47名)</p> <p>(1) -エ 生徒の「先生は進路についての情報をよく知らせてくれる」71%以上 (H28 68%)</p> <p>保護者の「学校は進路についての情報をよく知らせてくれる」51%以上 (H28 48%)</p> <p>(1) -オ 進路未決定者率の2%減少 (H28 12%)</p> <p>(2) -ア 個人面談は年3回、進路ホームルームでは年1回、結果を活用する。</p> <p>(3) -ア オープンスクール参加中学生の3%増加 (H28 189名) 及びイズトリだよりを発行する。</p> <p>(3) -イ スポーツフェスティバルの参加中学生数の3%増加 (H28 446名)</p>	<p>(1) -ア 生徒の「将来の進路や生き方について考える機会がある」68%以上 H29 69.2(△) (H28 65%)</p> <p>(1) -イ 大学等オープンキャンパスで100名を超え、H29 述べ150名(◎)インターンシップ等への参加者の10%増加 H29 80名(◎) (H28 38名)</p> <p>(1) -ウ 進学希望者への対応。また、大学、短大進学者数の10%増加 H29.1 47名(△) (H29.3 47名)</p> <p>(1) -エ 生徒の「先生は進路についての情報をよく知らせてくれる」71%以上 h29 73.5(◎) (H28 68%)</p> <p>保護者の「学校は進路についての情報をよく知らせてくれる」51%以上 H29 48.7 (△) (H28 48%)</p> <p>(1) -オ 進路未決定者率の2%減少 H29.1 13(△) (H28 12%)</p> <p>(2) -ア 個人面談は年3回、進路ホームルームでは年1回、結果を活用した。(○)</p> <p>(3) -ア オープンスクール参加中学生の3%増加 H29 200名(△) (H28 189名) 及びイズトリだよりを発行する。</p> <p>(3) -イ スポーツフェスティバルの参加中学生数の3%増加 H29 450名 (△) (H28 446名)</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">4 自ら学び続ける教師集団の確立</p>	<p>(1) 授業改善のための学び合い。</p> <p>(2) 教員や保護者が本校生徒、学校の実情を知る。</p>	<p>(1) ア 年3回以上の研修会を開催する。</p> <p>イ 近隣の学校、教員等とも連携をとり、得た情報や知識を報告する機会を設けその成果を共有する。</p> <p>ウ 授業見学の機会を増やすことにより、自己の授業改善に活かす。</p> <p>エ 全国等で開催される講演・研修会や先進的な取り組みをする学校・PTA・部活動等に出向き研修する。</p> <p>(2) ア 経験の少ない教員と経験豊かな教員との情報交換をする場を定期的に設ける。</p> <p>イ 「学力向上のためのプロジェクトチーム」の提言を取り入れていく。</p> <p>ウ 教員は、生徒等の実情を理解する。言葉遣いや丁寧な対応で、人権を尊重しながら適切に対処する。</p>	<p>(1) -ア 研修会を開催し資質向上に努める。教員の「研究授業を定期的実施している」21%以上 (H28 16%)</p> <p>(1) -イ 学期ごとに1名以上が報告</p> <p>(1) -ウ 生徒の「他の先生が授業を見学に来ることがある」76%以上 (H28 73%)</p> <p>(1) -エ 管外研修等を7人以上が実施する。</p> <p>(2) -ア 教員の「経験の少ない教員と経験豊かな教員の交流を定期的実施」53%以上 (H28 48%)</p> <p>(2) -イ 教員の「学校教育計画・学校経営計画の重点目標に照らして目標を設定し教育活動を行う」60%以上 (H28 55%)</p> <p>(2) -ウ 保護者の「先生は一社会人として適切な対応ができています」68%以上 (H28 65%)</p>	<p>(1) -ア 研修会を開催し資質向上に努める。教員の「研究授業を定期的実施している」21%以上 H29 10.9(△) (H28 16%)</p> <p>(1) -イ 学期ごとに1名以上が報告(△)</p> <p>(1) -ウ 生徒の「他の先生が授業を見学に来ることがある」76%以上 H29 65.7 (△) (H28 73%)</p> <p>(1) -エ 管外研修等を7人以上が実施する。H29 述べ5人に留まった(△)</p> <p>(2) -ア 教員の「経験の少ない教員と経験豊かな教員の交流を定期的実施」53%以上 H29 41.3 (△) (H28 48%)</p> <p>(2) -イ 教員の「学校教育計画・学校経営計画の重点目標に照らして目標を設定し教育活動を行う」60%以上 H29 65.2 (○) (H28 55%)</p> <p>(2) -ウ 保護者の「先生は一社会人として適切な対応ができています」68%以上 H29 62.1 (△) (H28 65%)</p>

平成29年度 学校教育自己診断結果

- ◎ 肯定率 80%以上(A≥80)
 ○ 肯定率 70%以上 80%未満(80>A≥70)
 △ 肯定率の方が高い(70>A>B)
 ◇◆ 肯定率と否定率の差が 10 未満(A-B≤10)＋が◇、－が◆
 ▼ 明らかに否定率が高い(A<B)

白抜き項目は、今年度重点目標

項目	対象	問 No	質問文	評価	① そう 思う	② ややそ う思う	①+ ② (A)	③ あまり思わ ない	④ 全くそう思 わない	③+④ (B)
学力向上	保護者	2	子どもの基礎学力が向上したと感じる。	△	15.5	40.1	55.5	30.3	6.1	36.5
	生徒	3	自分の学力の向上を実感している。	△	15.6	45.1	60.7	29.9	8.0	38.0
	教員	2	学校全体として、授業は、基礎学力の向上に重点を置いている。	◎	43.5	37.0	80.4	10.9	2.2	13.0
学習評価 の納得度	保護者	3	子どもの学習の評価は、納得できる。	○	26.4	48.0	74.4	15.5	2.9	18.4
	生徒	5	学習の評価は、客観的で公平であり、納得できる。	○	19.1	53.8	72.9	23.0	4.1	27.1
	教員	8	私は、学習の評価は、客観的で公平にしている。	◎	47.8	37.0	84.8	4.3	4.3	8.7
進路情報 を知らせて いる	保護者	4	学校は、進路についての情報をよく知らせてくれる。	△	16.6	32.1	48.7	30.3	5.8	36.1
	生徒	7	先生は、進路についての情報をよく知らせてくれる。	○	26.2	47.3	73.5	22.8	3.7	26.5
	教員	12	学校全体として、進路についての情報をよく知らせている。	○	26.1	45.7	71.7	21.7	2.2	23.9
1年からの 進路教育	保護者	5	懇談等で、1年時から進路に関して具体的に先生と話しをしている。	△	17.0	36.5	53.4	27.4	7.6	35.0
	生徒	8	1年生の頃から、進路実現に向けた授業や進路に関心を持てる授業が行われている。	△	15.2	50.8	65.9	28.6	5.2	33.8
	教員	11	学校全体として、1年次からキャリア教育の目標を設定し実践している。	△	26.1	41.3	67.4	19.6	6.5	26.1
進路を考 えさせて いる	保護者	6	子どもの将来の進路や生き方について、子どもと話し合う機会がある。	○	36.1	40.1	76.2	17.0	5.1	22.0
	生徒	9	将来の進路や生き方について考える機会がある。	△	23.0	46.2	69.2	25.2	5.4	30.6
	教員	14	学校全体として、生徒の進路や生き方について考える機会を設けている。	○	17.4	54.3	71.7	21.7	4.3	26.1
奨学金情 報周知	保護者	7	学校は、奨学金制度についての情報を知らせてくれる。	△	35.0	28.5	63.5	20.9	7.6	28.5
	生徒	10	先生は、奨学金制度についての情報を知らせてくれる。	△	17.6	45.1	62.7	31.2	5.9	37.1
	教員	15	私は、奨学金制度について理解している。	△	13.0	39.1	52.2	37.0	8.7	45.7
相談に乗 ってくれる か	保護者	10	学校は、親身になって相談に応じてくれる。	△	20.9	32.1	53.1	20.2	4.7	24.9
	生徒	13	悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い。	△	18.0	44.9	62.9	28.9	8.2	37.1
	教員	21	学校全体として、教職員は生徒の意見をよく聞いている。	○	19.6	54.3	73.9	15.2	4.3	19.6
	教員	22	学校全体として、職員は、生徒と対話し常に信頼関係づくりに取り組んでいる。	◎	34.8	47.8	82.6	13.0	2.2	15.2
人権を尊 重した対 応	保護者	12	学校は、子どもの人権を尊重する姿勢で指導に当たっている。	△	13.4	33.9	47.3	19.9	6.9	26.7
	生徒	15	先生は、人権を尊重する姿勢で対応してくれている。	△	15.4	51.0	66.4	27.1	6.5	33.6
	教員	24	学校全体として、人権を重視した上で様々な生徒指導や保護者対応を行っている。	◎	32.6	47.8	80.4	15.2	0.0	15.2
教育相談 制度	保護者	13	スクールカウンセラーに相談できることを知っている。	△	25.6	19.5	45.1	13.4	9.4	22.7
	生徒	16	生徒相談室の利用方法を知っている。	▼	11.7	29.3	41.0	26.9	31.5	58.4
	教員	25	私は、生徒相談室の利用方法を知っている。	○	43.5	32.6	76.1	13.0	4.3	17.4
行事の工 夫	保護者 (行事)	17	学校行事(体育祭・文化祭・校外学習など)は、子どもが楽しくできるように工夫されている。	△	26.0	34.7	60.6	21.7	5.4	27.1
	生徒	20	文化祭は、みんなが楽しくなるよう工夫されている。	△	21.7	46.2	67.9	24.3	7.8	32.1
	生徒	21	体育祭は、みんなが楽しくなるよう工夫されている。	△	20.2	44.3	64.4	27.3	7.8	35.1
	教員	29	学校全体として、生徒が楽しくなるように文化祭を工夫している。	○	19.6	56.5	76.1	17.4	2.2	19.6
	教員	30	学校全体として、生徒が楽しくなるように体育祭を工夫している。	○	23.9	52.2	76.1	15.2	2.2	17.4
部活の活 性化	保護者	18	学校は、部活動が活発になるように取り組んでいる。	◆	7.6	23.8	31.4	26.7	8.7	35.4
	生徒	22	学校は、部活動が活発になるように取り組んでいる。	◆	11.7	34.7	46.4	30.6	22.1	52.7
	教員	31	学校全体として、学校の部活動が活発になるように取り組んでいる。	▼	6.5	32.6	39.1	37.0	15.2	52.2
清掃への 取り組み	保護者	19	学校は、掃除がいきとどき、綺麗な環境に整えられている。	△	14.1	41.2	55.2	15.5	9.0	24.5
	生徒	23	自分は、掃除に積極的に取り組んでいる。	○	28.0	42.7	70.7	24.3	4.1	28.4
	教員	32	学校全体として、普段から校内は綺麗な環境に整えられている。	◆	13.0	32.6	45.7	28.3	26.1	54.3
	教員	33	学校全体として、普段から清掃活動をしっかり行っている。	△	8.7	43.5	52.2	32.6	15.2	47.8
いじめ対 応	保護者	24	学校は、いじめについて子どもが困っていることがあれば、真剣に対応してくれる。	△	10.1	25.6	35.7	13.7	4.7	18.4
	生徒	25	先生は、いじめについて私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる。	△	19.7	44.0	63.8	29.7	6.5	36.2
	教員	40	学校全体として、いじめが起こった際の体制が整っており、迅速に対応することができる。	○	26.1	50.0	76.1	13.0	4.3	17.4

分からない・無回答があるため合計は 100%にならない

- ① 質問は、保護者・生徒・教員の同様なものをまとめた。(まったく同趣旨ではないものもある)
- ② 肯定率 8 割以上(◎)の項目は、教員のみ4項目あるが、保護者・生徒の見方はそこまでではない。
→取り組みの周知・広報・説明等、工夫・改善が必要。
- ③ 保護者の回答は、「進路情報」「人権尊重」「教育相談」「部活活性化」「いじめ対応」で5割未満になっている。
→「部活」以外は取り組みを伝える工夫・努力をして、肯定的評価を増やすようにしたい。
「部活活性化」については、現状を少しでも向上させる取り組みを地道に進めていく。
- ④ 「学力向上」は、生徒の肯定的評価6割ではもの足りない。さらなる向上をめざす。
- ⑤ 進路指導については、1年生から継続的に HR 等を行い、生徒の意識の向上につながっている。
数字的には、もう少し肯定的評価の数字を増やしたい。
- ⑥ 本校の教員は、生徒に親身にかかわり、話や相談しやすい雰囲気といえる。
保護者の評価が低めになっているものもあるが、これは改善していきたい。
- ⑦ 「部活活性化」については、これまでの取り組みが功を奏していない。しかし、これまでの地道な取り組みに加えて新たな方策も検討したい。